



第9回日本-ボリビア消化器国際シンポジウムと第30回パンアメリカン消化器病学会特別シンポジウム

日本-ボリビア医療友好協会会長
(東京歯科大学市川総合病院内科)

森下 鉄夫

昨年(2006年、平成18年)南米ボリビアのサンタクルス市にて、ボリビアへ移住された日本人の方々によるサンタクルス中央日本人会創立50周年と日本-ボリビア医療友好協会(Asociacion Medica y Amistad Boliviano-Japonesa y Nipono-Boliviana) 25周年が祝されました。11月9日~11日には記念事業としてサンタクルス市で梶原哲郎記念第9回日本-ボリビア消化器国際シンポジウム(IX Simposio Internacional Boliviano-Japones

de Gastroenterología "Prof. Tetsuro Kajiwara")が開催されました。今回は、日本-ボリビア医療友好協会前会長の梶原哲郎先生(東京女子医科大学名誉教授)の長年の御功績と御尽力を讃え感謝し、梶原先生の記念シンポジウムとしても催されました(写真1)。

シンポジウムは英語、スペイン語、日本語の通訳のもと、胃癌、大腸癌、肝胆道癌のセッションで25の講演があり、一般演題で21の発表がされま



写真1：梶原哲郎記念第9回日本-ボリビア消化器国際シンポジウム開会式
(2006年11月9日、ボリビアのサンタクルス)

した。今回、腹部エコーの教育コースも併設されました。また、消化器と他科領域の連携をテーマに整形外科、皮膚科、泌尿器科の医師による3講演も行われました。日本から生越喬二先生や竜崇正先生をはじめとする16名の日本人が参加し講演をされ、さらに Hospital Japonés (日本病院) と Clinica Kamiya (神谷クリニック) にて手術や内視鏡治療が公開供覧されました。ボリビア、ブラジル、ペルー、パラグアイなどから258名の医師が出席されました。

日本-ボリビア医療友好協会25周年のもう一つの記念事業として『Historia de la Asociación Médica y Amistad Boliviano-Japonesa y Nipono-Boliviana』(日本-ボリビア医療友好協会の歩み)(Kamiya T. y Morishita T.: Asociación Médica y Amistad Boliviano-Japonesa y Nipono-Boliviana, Santa Cruz, 2006)と『Atlas de Ecografía Abdominal』(腹部超音波検査アトラス)(Morishita T. y Morishita A.: Nueva Acropolis, Bruselas, 2006)が出版されました。

以前より毎回、日本-ボリビア消化器国際シンポジウムに続いてパンアメリカン消化器病学会にも参加してきました。今回は、第30回パンアメリカン消化器病学会(XXX Pan-American Congress of Gastroenterology、11月11日～16

日、カンクン)で、日本-ボリビア医療友好協会の主催により「Special Symposium Japan-Bolivia-Mexico, Current Management of Gastric Cancer and Colorectal Cancer in Japan」(11月15日午前・午後)を設けました。

ボリビアからはほぼ同じ日本人メンバーがメキシコのカンクンに移動し、さらに2名の先生が途中参加されました。胃癌、大腸癌に加え肝癌のセッションを組み、英語とスペイン語の同時通訳で行われました。午前と午後1日をかけ、14演題が発表されましたが、250名(一点観測)の出席者があり立ち見の方々もおられました。中米においても日本の胃癌をはじめとする消化器癌の診断・治療への関心の高さが改めて感じられました。

御講演と手術や内視鏡を御披露・御指導くださった梶原哲郎先生、竜崇正先生、生越喬二先生、遠藤俊吾先生、加藤博之先生、山口茂樹先生、堂本又巖先生、畠山征也先生、森下英夫先生、森下美知子先生、村山実先生、金達浩先生、辰川貴志子先生、荒川修二先生、伊藤美代子先生、田澤賢次先生、後藤利夫先生(順不同)に深謝申し上げます。

今回も渾身の御努力をしてくださった医療友好協会ボリビア側会長の Dr. Toshiaki Kamiya (神谷利明) とパンアメリカン消化器病学会会長の Dr. Enrique Wolpert をはじめとするボリビアとメキシコの先生方に御礼申し上げます。

次回(2008年)は日本-ボリビア消化器国際シンポジウムがラパスで、パンアメリカン消化器病学会はチリのサンチャゴで開かれます。

日本-ボリビア医療友好協会が日本とボリビアのみならず、今後アジアと中南米を結ぶ架け橋となるべく、皆様に御指導とお力添えをお願い申し上げます。



写真2：第30回パンアメリカン消化器病学会会場
(2006年11月15日、メキシコのカンクン)